

CSR REPORT 2020

ミウラグループCSR報告書

熱・水・環境のベストパートナー



ミウラは Fun to Share に参加しています



未来のために、
いま選ぼう。



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C016467



VEGETABLE
OIL INK
Printing. Naturally.

印刷日 2020年6月 2001
本冊子の無断転載を禁止します。

熱・水・環境のベストパートナー



三浦工業株式会社

CONTENTS

1 ● ミウラグループの概要

3 ● トップコミットメント

ミウラグループのSDGs

5 ● ミウラグループのCSR×SDGs

6 ● 「愛とひらめきミウラフェア」開催

7 ● 省エネ大賞トリプル受賞

9 ● 従業員・家族向けイベント

10 ● 地域社会への貢献

11 ● 働きがいへの貢献

Environment

環境報告

13 ● 環境マネジメント

15 ● 汚染防止の取り組み

15 ● 自然との共生

16 ● 省エネルギーの取り組み

16 ● 省資源の取り組み

Governance

ガバナンス

17 ● コーポレート・ガバナンス

18 ● コンプライアンス、リスクマネジメント

Sociality

社会性報告

19 ● お客様への責任と行動

21 ● 株主・投資家への責任と行動

22 ● 取引先への責任と行動

23 ● 地域社会への責任と行動

26 ● 従業員への責任と行動

27 ● 財務・非財務データ

29 ● 第三者意見

30 ● 第三者意見を受けて

ミウラグループの概要

会社概要

【社名】三浦工業株式会社

【事業内容】小型貫流ボイラ・船用補助ボイラ・排ガス(廃熱)ボイラ・水処理装置・食品機器・滅菌器・薬品等の製造販売、メンテナンス、環境計量証明業等

【所在地】愛媛県松山市堀江町7番地 T799-2696

【代表者】代表取締役 社長執行役員 CEO 宮内 大介

【創立】1927(昭和2)年12月1日

【設立】1959(昭和34)年5月1日

【資本金】95億4,400万円

【発行済株式総数】12,529万株(東証一部)

【証券コード】6005

【連結売上高】1,436億45百万円(2019年度)

【従業員数】連結5,893名(2020年3月31日現在)

グループ5,920名(うち海外1,720名)

(正社員・準社員のみ)

事業概要

ミウラグループは、「熱・水・環境のベストパートナー」を目指し、資源の有効活用と環境に優しい社会の創造に貢献する企業としてボイラで培ってきた「熱・水・環境」の技術を活かし、「電気」「空気」まで含めた幅広い分野で事業を展開しています。ミウラ独自の技術やサービスを通じて省エネルギー化や環境汚染物質の排出削減など、お客様が抱えられている問題を解決するための最善のソリューション提案を世界24の国と地域で展開しています。



連結売上高

1,436 億円

従業員数

連結
5,893 名

グループ
5,920 名

(うち海外1,720名) ※正社員・準社員のみ

フィールドエンジニア数

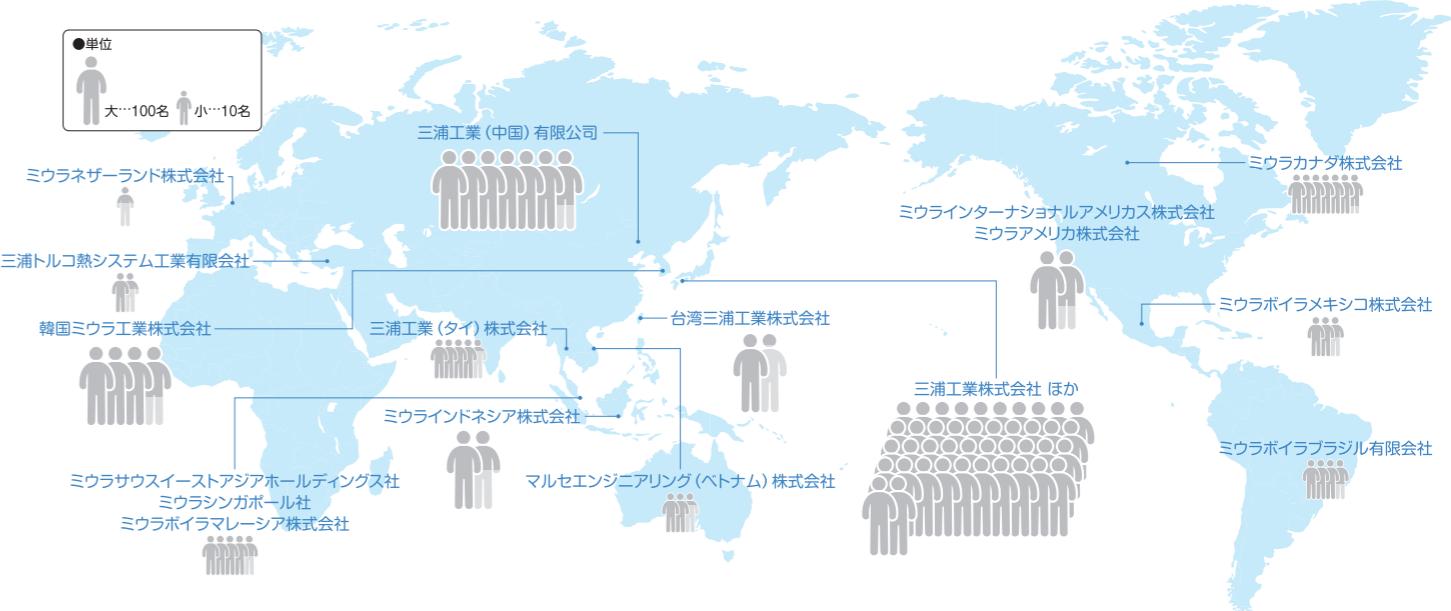
約**1,100** 名
(三浦工業)

国内拠点数

約**100** 力所

販売国

※日本含む
24 の国と地域



グループ会社

〔 国 内 〕

三浦工機株式会社

三浦アクアテック株式会社

株式会社三浦マニファクチャリング

三浦環境マネジメント株式会社

株式会社ミウラ・エス・エー

ミウラジョブパートナー株式会社

アイナックス稻本株式会社

株式会社丹波工業所

北日本ボイラ株式会社

〔 海 外 〕

韓国ミウラ工業株式会社

三浦工業(中国)有限公司

三浦工業(香港)有限公司

台湾三浦工業株式会社

ミウラサウスイーストアジアホールディングス社

ミウラシンガポール社

ミウラインドネシア株式会社

三浦工業(タイ)株式会社

マルセエンジニアリング(ベトナム)株式会社

ミウラインターナショナルアメリカス株式会社

ミウラアメリカ株式会社

ミウラカナダ株式会社

ミウラボイラメキシコ株式会社

ミウラボイラブラジル有限会社

ミウラネザーランド株式会社

三浦トルコ熱システム工業有限会社

ミウラグループ 2020年3月31日現在



三浦工業株式会社
代表取締役 社長執行役員 CEO
宮内大介

新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、感染被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い感染拡大の終息を強く願っております。

60周年の感謝を、 すべてのステークホルダーの皆さんに

前年度は、2019年5月に設立60周年を迎えて、さまざまなイベントを通して感謝をお伝えする一年となりました。これまで支えてくださった、すべてのステークホルダーの皆さんに改めて感謝を申し上げます。

ミウラは、100年企業に向けて歩みを進めておりますが、その歴史において「お客様との持続的なつながり」を大切にし、そこで得られた皆さまからの信頼を原動力にチャレンジを続けてまいりました。現在、世の中の変化(脱炭素化・環境保全・人財不足等)のスピードは凄まじく、かつ多様性を求めています。そのような中でも不变的に求められるものは、「お客様との信頼あるつながり」です。ミウラは、「信頼関係をベースに持続的に一つでも多くの商品を通してお客様とつながり続ける会社」であることを基本として、世の中の変化以上

のスピードで進化し続けることができるよう、また、お客様の一番近くで営業・メンテナンス活動を通じ、お客様が抱えられているさまざまな課題解決に貢献し、省エネルギーと環境保全でお役に立てるベストパートナーであり続けられるよう日々邁進して参ります。

従業員・地域社会との コミュニケーションを促進

60周年の感謝を込めて、従業員と家族を対象としたイベントを全国で実施しました。職場の雰囲気や、ミウラが取り組んでいる課題や社会貢献について、従業員家族にお伝えすることができました。このイベントを通じて、ミウラグループ全体のコミュニケーションを促進させることができます。

また地域社会への貢献活動としては「+i プラネタリウム」を全国の小学校やイベントで上映しました。環境に優しい社会、そしてきれいで快適な生活を継続するために私たち一人ひとりができることは何なのか、を問いかける内容となっています。ミウラの企業理念を社内のみならず、広く伝えしていくことは「持続可能な社会の実現」へつながっていると考えています。

これからのミウラ

現在、世界中の企業はSDGs(持続可能な開発目標)達成に向けてさまざまな取り組みを行っていますが、ミウラグループは設立当初からボイラで社会に貢献する事業活動をはじめ、高効率で環境負荷低減型のボイラの普及に努めて参りました。また近年の働き方改革についても、設立間もない時期に「我々はわが社を最も働きがいのある、最も働きやすい職場にしよう」をモットーに掲げ、すべての従業員が生産的で働きがいのある仕事ができる環境整備と、さまざまな制度改革を実施してきました。

ミウラグループは、これからも積極的に事業活動を通じてSDGsへの貢献を行って参ります。従業員一人ひとりが企業理念を念頭におき、自分のミッションが地球と子どもたちの未来のためになるのだろうか?と想いを巡らし、そこに、自分の「愛」を込めた提案を行って参ります。

そして、100年企業に向け、世の中に選ばれ続けるミウラブランドを目指して参りますので、引き続き、皆さまからの一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ミウラグループ企業行動規範

1. 法令等の遵守

- 国内外の法令を遵守することはもちろん、企業倫理に照らして誠実かつ公正に業務を遂行します。
- 國際的な事業活動においては、国や地域の文化・慣習を尊重します。

2. 安全性の重視

- 安全性を第一に考えたものづくりを行います。
- 健康で安心して働ける、最も働きがいのある職場づくりに努めます。

3. お客様の満足・信頼

- 社会的に有用で高品質の製品やサービスを創出し、お客様に満足をお届けしてまいります。
- 最高のテクノサービスを追求し、お客様から信頼される企業へと進化発展を遂げることを目指します。

4. 人権の尊重

- 従業員の人格、個性を尊重し、自由かつ公平な職場の実現に努めます。
- 人種、国籍、民族、宗教、信条、性別など、非合理的な理由により差別的な取り扱いは行いません。

5. 取引ルールの遵守

- 公正で自由な競争に基づく事業活動を行います。
- 取引先と良好な信頼関係を築き、ベストパートナーを目指します。

6. 環境問題に対する取り組み

- 環境への配慮を重視した製品・サービスを開発、提供し、地球環境保全に貢献する企業を目指します。
- 事業活動から生じる環境への影響を考え、環境負荷や環境リスクの低減に努めます。

7. 社会貢献・反社会的勢力との関係

- 「良き企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います。
- 反社会的な活動を行う団体や勢力とは、一切の関係をもちません。

8. 企業情報開示・情報管理

- 社会が必要とする企業情報を適正かつ適時に開示し、開かれた企業を目指します。
- 個人情報やその他の重要な秘密情報は、細心の注意をもって管理し、その保護に努めます。

ミウラグループのCSR×SDGs

ミウラグループの考えるCSRとは、企業理念「熱・水・環境の分野で、環境に優しい会社、きれいで快適な生活の創造に貢献します」そのものです。高効率で環境に優しいボイラから始まった事業は、熱・水・環境の分野での課題解決に領域を広げ、今では世界中のお客様へ製品・サービスを提供できるようになりました。そして私たちミウラは、CSR活動を通して世界が目指すSDGs “持続可能な開発目標”を100年企業に向けての目標の一つと捉え、従業員への教育、個々の取り組みや企業活動を通して貢献して参ります。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

SDGsへの
アプローチ
1

持続可能な社会の実現に向けて 環境に優しい製品でお客様に貢献

2019年8月から11月にかけ、全国5会場で「愛とひらめきミウラフェア」と題したプライベート展示会を開催し、世界中のお客様をご招待しました。「世界へ、未来へ、+!を。」をテーマに掲げた今回のフェアは、ミウラの「環境に優しい製品」を一堂に取り揃え、最新の提案とこれからの取り組み(+!)をご覧いただきました。

つくる責任、つかう責任

フェアでは、持続可能な社会の実現に向けて、機器単体の技術革新はもちろん、工場全体のトータルソリューションによる省エネルギー提案や「水素社会実現に向けた取り組み」と

して、来たるべき水素エネルギー社会に対応するための関連機器をはじめ、最新技術を活用したメンテナンス活動を紹介し、ご来場の皆さまにご注目いただきました。



お客様の
ひとこと



水素社会とその先の脱炭素化を切り拓きます

東京ガスは、2019年11月に2030年に向けた経営ビジョン「Compass2030」を発表しました。その柱の1つが「CO₂ネット・ゼロをリードする」というものです。三浦工業様と共同開発を進めている小型水素製造装置「suidel」や超高効率燃料電池システムは、こうした観点から重要な取り組みであり、省エネル

ギーやCO₂排出量削減を実現し、水素社会の進展に貢献できるものです。すでにsuidelはお客様先での実証試験を進めており、また超高効率燃料電池システムはフィールド実証を開始します。今後とも、三浦工業様との連携を深めながら、将来のCO₂ネット・ゼロの実現を目指していきます。

東京ガス株式会社 ソリューション技術部長 天野 寿二 様



環境保全に貢献“省エネ大賞”トリプル受賞

省エネ大賞とは、一般財団法人省エネルギーセンターが先進的で高効率な省エネ型製品や、優れた省エネ活動への取り組みを表彰する制度です。2019年度は、製品・ビジネスモデル部門資源エネルギー庁長官賞をはじめとする三部門で受賞しました。ミウラの技術力と環境保全活動が評価された結果と考えています。

※「省エネ大賞」は一般財団法人省エネルギーセンターの登録商標です。

責任者のひとこと



環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献する企業を目指して

ミウラでは企業理念の実現に向けて熱・水・環境に加えて、電気・空気の分野でも日々研究開発を行っています。ボイラで培った技術力を基盤に、設立以来60年にわたって蓄積しているビッグデータやお客様の一番近くでメンテナンスを行うフィールドエンジニアからの声（お客様の課題や問題点）を集約し、省エネルギーや環境保全に役立つ製品開発に取り組んでいます。そしてお客様の声の先には子どもたちのより良い未来や人々の笑顔につながると信じ、製品開発での貢献はもちろん、個人・チームで取り組む「草の根運動」にも積極的に実施しています。



製品・ビジネスモデル部門 省エネルギーセンター会長賞

年間30%の省エネと10%の省水を実現したRO装置を開発

独自のセンシング技術+コントロール技術を最大限に有効活用し、3つのフィードバック制御を開発。洗浄用水・製造用水、またボイラ給水の水質改善など広く利用されているRO装置の省エネ・省水を追求した製品です。今後もさらなる効率化を目指していきます。

① 定流量 フィードバック制御

水温の影響を受けず、給水加温が不要なため、ランニングコストを約45%削減

② 給水圧力 フィードバック制御

元圧力を有効利用し、加圧ポンプの消費電力を抑えることで、消費電力を年間平均30%削減

③ 排水量 フィードバック制御

許容回収率に対し、より多段階に追従可能な1%刻みの回収率で、排水量を年間平均10%削減



MRO-6000CG



省エネ事例部門 省エネルギーセンター会長賞

全員参加の「草の根運動」による省エネルギーの推進

一人ひとりが、事務所で、工場で、拠点で、省エネ活動「草の根運動」に積極的に参加し、全従業員で取り組んだミウラ独自の活動が認められ、受賞の運びとなりました。今後もSクラス[※]を維持しながら、低炭素社会の実現を目指し、省エネ活動を継続いたします。

※省エネ法に基づく事業者クラス分け評価制度



お客様のひとこと

ボイラ給水加温ユニットVHの導入と環境保全について

弊社では大気汚染防止法に基づく管理遵守を目的としてボイラの燃料を重油からLNGに転換しましたが、公害関係については大きく貢献できた一方でボイラの運転コストが大幅にアップしました。このことから、いかにボイラの「運転コストを低減するか」を次の目標に掲げ、調査・検討した結果、ボイラ給水加温ユニットVHを導入することで、弊社で発生している工程処理水の廃熱を有効利用し、ボイラの効率もアップできることが判明、導入にいたりました。導入効果は、ボイラの運転効率については期待通りの実績値となり、また想定外の効果として、工程処理水の廃熱で発生していた水蒸気を抑制できることで、冬期に工場近接の一般道路の視界を妨げる現象が皆無となり、環境問題にも大きく貢献できました。これらの結果が社内で“VH効果大”と認識され、順次増設運用、現時点で10基の導入となりました。今後もさらなる高効率タイプを早期対応できるよう三浦工業様に期待をしています。



今回のVH導入については、「素晴らしい提案案、素晴らしい装置、素晴らしい対応」に感謝の一言です。本当にありがとうございました。

導入したVHの前で
(前方より、日揮触媒化成・齊藤様、三浦工業
担当営業・谷口さん、担当
フィールドエンジニア・荒川さん)

日揮触媒化成株式会社 製造管理部
ユーティリティーグループマネージャー 齊藤 正男 様

ボイラ給水加温ユニット VH-155L



VH-155L

製品・ビジネスモデル部門 資源エネルギー庁長官賞

低温廃水や循環冷却水の熱エネルギーを活用してボイラの燃料使用量を削減できる省エネ機器を開発

省エネルギーセンターによる工場の温水廃熱量を調査した結果では、60°C以下の低温廃熱が全体の約半分を占めるとされています。この低温廃熱を有効に活用することができれば、大きな省エネにつながりますが、温度が低くなればなるほど、活用できる用途が少なくなります。本製品は、このような従来活用することが難しかった低温の廃熱を、ヒートポンプの技術を利用して、ボイラの給水加温などに有効活用できる省エネ機器です。特許も取得した、ミウラ独自のヒートポンプサイクルを開発し、これまでのヒートポンプに比べて、効率を2倍に向上させました。これにより、省エネ効果も倍増し、さらなる省エネの普及・促進を進めて参ります。

ミウラの草の根運動

●省エネコンテストを開催

全従業員が参加できる省エネアイデアと省エネ社内活動（分析と改善）を募集するコンテストを開催し、3年間で256件の応募がありました。



省エネコンテストによる省エネ効果

216.6 kJ

ミウラグループの年間平均エネルギー使用量6,851kJの3.16%に相当

●省エネ意識改革

eco検定^{※1}制度を導入し、現在は全従業員の47%にあたる1,909名^{※2}が合格者です。

※1. 東京商工会議所が主催している環境社会検定試験

※2. 2019年3月末現在



●見える化

各自のパソコンでエネルギー使用状況や省エネ活動を表示しています。



毎月1日の省エネの日に
社内アナウンス

SDGsへの
アプローチ
3

従業員・家族を対象としたイベントを開催

2019年5月に60周年を迎えたミウラは、従業員と家族を対象とした「愛とひらめきミーティング」を7~11月の期間、全国14会場で実施し、合計で約2,400名が参加しました。

「愛とひらめきミーティング」で企業理念を浸透

従業員と従業員を一番身近で支えている家族に対して「熱・水・環境の分野で環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献します」という企業理念の浸透に向けて、ミウラが取り組んでいる活動や歴史を振り返るイベントを全国で実施しました。ゲームや食事会などを通して交流し、当日の写真約12,000枚を活用したモザイクアートも制作。100年企業に向けた新たなスタートを切りました。

モザイクアートは
WEBサイトで
公開しています。

参加者の ひとこと



社員には企業理念も日々浸透しているが、今回のミーティングを通じ、奥様、旦那様、ご子息にもミウラの取り組みや、ご家族の頑張りが理解いただけたかと思います。今回のイベントを通じ、「ご子息がミウラに入社したい」と言っていただけ、ともに働くことを楽しみにしています。

三友会委員長 馬越 誠



仙台会場

全国14会場で 2,393名が参加

北海道	7月 7日(日)	59名
岩手県	7月15日(月・祝)	51名
宮城県	7月13日(土)	50名
埼玉県	9月 1日(日)	114名
群馬県	9月22日(日)	110名
東京都	11月 2日(土)	274名
静岡県	9月 7日(土)	103名
愛知県	10月26日(土)	119名
石川県	10月20日(日)	60名
大阪府	10月 6日(日)	185名
広島県	11月24日(日)	79名
愛媛県	9月29日(日)	1,029名
福岡県	7月27日(土)	118名
鹿児島県	7月21日(日)	42名



大阪会場



東京会場



一緒に参加した娘さん

北摂支店 北摂TSM 山本 哲也

SDGsへの
アプローチ
4

移動式プラネタリウムで 地球と子どもたちの未来を考える

星空の美しさを見上げることで、環境についての関心と、未来へ、この美しい自然環境を守る大切さを伝えたい、そんな思いを移動式プラネタリウムで表現し、全国の小学校や子どもイベント、ミウラフェアなどでたくさんの方に体験いただきました。



地球環境を守るために 私たちができるって何だろう

小学校ではプラネタリウムと合わせて、気象予報士による環境出前授業を実施、今まででは地球温暖化により環境破壊がどんなに進むかなどを分かりやすく学びました。この体験を通して、私たちにとって便利な世の中を作っていく一方で、自然や多くの生き物が傷つき姿を消していくことに気づいて欲しい、そして、一人ひとりが、「ひらめき」と「愛」でできることから始めて欲しい。私たち一人ひとりが変われば、未来をきっと変えることができるんだということを伝えることができました。

全国から届いた
感想文

とにかく、きれいですごかった。本当の夜空かと思った。こんなきれいな夜空がなくなったらぜったいにいやだから地球温暖化は本当に大変なことだと思った。(6年)

プラネタリウムを見て、自分がさずつける気がなくとも、地球をさずつけていると知り、もっと地球を大切にしようとと思いました。(6年)

人間は自分たちのためではなく、生き物や地球のことも考えてくらうといかないと、と思った。(5年)

星などがくわしく分かり、宇宙に行った気分ですごく楽しかったです。(6年)

こんなに多くの星があるなんて思いました。あまりにもすてきだったので、今夜から星をみたいと思います。(4年)

実施校 全国7小学校で 1,003名の児童が参加

7月 3日[水] 愛媛県・松山市立堀江小学校
9月10日[火] 愛知県・岡崎市立六ツ美中部小学校
10月 2日[水] 千葉県・市原市立有秋東小学校
10月 4日[金] 千葉県・流山市立西深井小学校
10月10日[木] 宮城県・仙台市立高砂小学校
10月16日[水] 京都府・立命館小学校
11月27日[水] 福岡県・福岡市立八田小学校



持続可能な経済成長は、働きがいから

ミウラは「我々はわが社を最も働きがいのある、最も働きやすい職場にしよう」をモットーに毎朝唱和し職場環境づくりに取り組んできました。「企業は人なり」を経営のマインドの柱としています。

SDGsの目標達成に向けてリサイクルプロジェクトを発足

2019年4月、SDGsの目標達成に貢献する企業を目指し、「Recycle Project」(以下、リサイクルプロジェクト)が発足しました。社内で排出される使用済コピー用紙類を再利用し、再生紙を作ることができる機械を導入。特例子会社ミウラジョブパートナーの従業員がノートや名刺、カレンダーなどさまざまな販売促進ツールを制作しています。それ

らをお客様にお渡しすることで、環境保全活動への理解を促進しています。

※ミウラジョブパートナー株式会社：ミウラグループの特例子会社として2017年2月に設立。「私たちは、ミウラグループ社員の皆様に『働きやすく、そして、快適できれいな職場』を提供するために、清掃、洗濯、保全、各種業務のサポートで貢献していきます。」というミッションを掲げ、従業員一人ひとりが日々チャレンジできる環境を整え、自己成長につなげています。



リサイクルプロジェクトが生み出す4つの効果

雇用の拡大

機密処理を社内で
処理できるため、
情報セキュリティレベルの向上

紙の購入量の削減

紙の購入や使用済み用紙回収が
不要なため、輸送時のCO₂排出が
抑えられる

SDGsを
社内に広げる
2つの取り組み



SDGsカルタ大会を実施

リサイクルペーパーで制作したミウラオリジナル「SDGsカルタ」を用いてカルタ大会を開催。従業員や家族にもSDGsへの取り組みを知っていただく機会になりました。

廃材からSDGsバッジを制作

製造過程で排出された廃棄される電機基盤を再利用して、「SDGsバッジ」を制作。従業員やショールームを見学されたお客様へのプレゼントとしても喜ばれています。

ミウラグループの労働・雇用データ

ミウラグループでは持続可能な経済成長を維持しつつ、すべての従業員が生産的で働きがいのある仕事ができる環境を整えるためにさまざまな制度を導入しています。業界

では先駆けてフレックス制度を採用するほか、女性活躍の推進はもちろん従業員の多様な働き方に対応するための制度を都度見直し、検討を繰り返しています。

人事データ (対象:三浦工業株式会社 2020年3月末時点)

平均年齢
39.3歳
〔男性〕**40.7歳** 〔女性〕**35.0歳**

女性役職者人数
240名
女性管理職人数
16名

従業員比率
〔女性〕**25%** 781名 合計**3,185名** 〔男性〕**75%** 2,404名

平均勤続年数
14.4年
〔男性〕**15.8年** 〔女性〕**10.0年**

制度の利用状況
産休・育休
時短勤務
〔人數〕**46名** 〔比率〕**137名**

障がい者雇用
〔人數〕**72名** 〔比率〕**2.2%**

※特例子会社等を含む

TOPICS

G20愛媛・松山労働雇用大臣会合後、 視察に来社されました

2019年9月、20カ国・地域(G20)愛媛・松山労働雇用相会合^{*}に参加した8つの国・国際機関の代表団関係者ら19名が三浦工業株式会社(愛媛県松山市)本社地区のショールーム「ミウラ愛ランド・ミウラ愛サイト」を視察し、IoTを活用した製品のオンラインメンテナンスサービスや女性活躍推進、障がい者の働き方などを見学しました。

*2019年6月に大阪市で開かれたG20首脳会合に合わせ、全国8カ所で順次開かれた関係閣僚会合の1つ。G20愛媛・松山労働雇用相会合が2019年9月1~2日、愛媛県松山市で開催され、愛媛県内では初めてのハイレベルで大規模な国際会議となった。





環境マネジメント

環境トップマネジメントコメント

世界は今、環境に関わる課題が深刻化しています。2019年12月に開催されたCOP25では、パリ協定6条のルール交渉の合意に至らず次回に先送りとなりました。しかしながら、気候変動が事業に与えるリスクや機会を把握し、削減への取り組み、持続可能な社会の実現が不可欠となっています。

ミウラグループは2018年度より「ミウラグループ ゼロ・エミッション チャレンジ2030」を策定し活動を行っています。CO₂削減については、従業員全員が省エネに興味を持って取り組めるイベントを企画。省エネ活動のアイデアや環境川柳を募集する「省エネコンテスト」で多くの声を集め、インターネットで共有することで、事務所や工場の隅々まで省エネ活動を水平展開しました。

結果、事業者クラス分け評価制度のSクラスを5年連続で継続し、さらにその活動が認められ、2019年度省エネ大賞「省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。排出物量削減については、リサイクルプラスチックと焼却プラスチックの分別や緩衝材のリユースを実施しています。中でも海洋プラスチックごみ問題、環境省が発表したプラスチック資源循環戦略について、プラスチック容器のリサイクル化、紙製の緩衝材の検討を始めています。

また、グリーン調達の取り組みとして有害化学物質の調査を開始し、自社のボイラ薬品は、ミウラグループグリーン調達ガイドラインに記載された有害化学物質の非含有について保証できる体制を整えることができました。

ミウラグループはさまざまな活動で環境課題の解決を達成し、持続可能な開発目標(SDGs)が現す社会の実現に貢献して参ります。

環境トップマネジメント
上席執行役員 柳原伸章

ミウラグループ環境方針

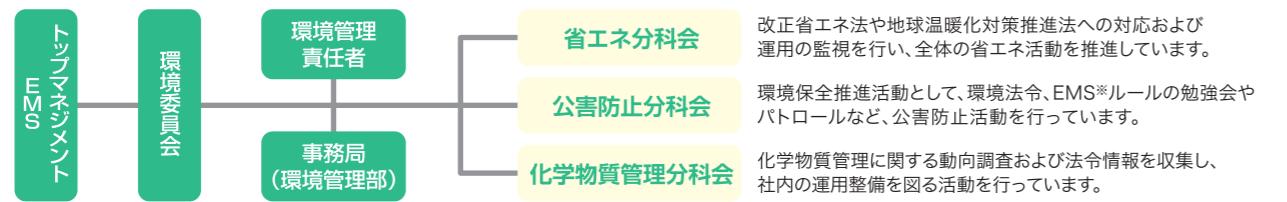
ミウラグループは、熱・水・環境の分野で、世界を舞台に、資源の有効利用と環境に優しい社会の創造のために、環境経営をより充実させ、持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指します。

- 行動指針 ① 環境側面から環境に与える影響をとらえ、環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善を図ります。
- ② 環境目的、目標は、社員一人ひとりが身近に参加でき、その総和が環境負荷低減につながる活動を優先的に取り上げます。
- ③ 環境側面に適用される環境関連法規およびミウラグループが同意するその他の要求事項を遵守し、汚染の予防に努め、自然との共生を図ります。
- ④ 事業活動から環境に与える影響のうち、次の項目を重点的に取り組みます。
 - ①省エネ・省資源・環境の改善に寄与する商品開発に努めます。
 - ②エネルギーの有効利用を図ります。
 - ③資源のリユースおよびリサイクルを通じて廃棄物の抑制に努めます。
 - ④化学物質管理の向上に努めます。

推進体制

環境マネジメントに関する課題の審議を行うため、環境委員会を定期的に開催しています。

●推進体制図



*EMS: Environmental management system (環境マネジメントシステム) の略です。

ミウラグループ ゼロ・エミッションチャレンジ2030

ミウラグループは2030年に向けて、事業活動および製品のライフサイクルにおいて、4つの視点で取り組み、CO₂、環境汚染物質、廃棄物、排熱など、すべての排出物を可能な限り最小化していくチャレンジを行います。

- ① 2017年度国内CO₂原単位基準より13%低減する。
- ② 2017年度愛媛県内工場の排出物量原単位基準より13%低減する



環境中期計画

環境目的	取り組み項目/実施内容	自己評価 2019年度	関連するSDGs
環境に貢献する 製品による	環境に配慮した 製品開発	廃熱、温水・ドレン水の活用に貢献できる製品を開発する。 電力・燃料・水の使用の削減に貢献できる製品を開発する。 無薬注による水処理の促進に貢献できる製品を開発する。 河川・海洋汚染の抑制に貢献できる製品を開発する。	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
	汚染の予防活動	ばい煙発生設備の定期的測定を実施し、大気の汚染防止に努める。 定期的な水質調査を実施し、水質の汚濁防止に努める。 定期的な騒音測定を実施し、騒音の発生防止に努める。 環境パトロールや製造機械の環境審査を実施し、緊急対応手順による監視を行う。	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
	化学物質管理の 推進を図る	化学物質情報共有化の仕組みをつくり運用する。 毒物および劇物の運用監視のための内部監査を実施する。	<input type="radio"/> <input type="radio"/>
	共自然との 共生を通じ 自然との共生を図る	工場周辺の清掃活動を実施する。(年4回) 工場周辺の河川清掃活動を実施する。(年2回) 工場内、屋上の緑地を維持管理する。	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
資源の 有効利用	エネルギーの 有効利用を図る	ISO14001認証サイト内のエネルギー使用量(原油換算)の削減のための省エネ施策を立案する。(毎年度向こう5カ年分) エネルギー使用量(原油換算)の原単位 ^{※1} 前年度比で年1%削減する。 工場再編、部門移動に応じた計測メーターの設置と計測を行う。	<input type="radio"/> <input type="radio"/>
	工場内の排出物の リユースおよびリサイクル の促進を図る	エネルギー管理要領および管理手順書に基づく運用管理を実施し、状況に合わせて見直しを行う。	<input type="radio"/>
	資源の有効利用を図る	工場内の排出物の総排出量 ^{※2} を原単位 ^{※1} の前年度比で年1%削減する。 リユース率、リサイクル率の向上を図る。	<input checked="" type="checkbox"/>
	資源の有効利用を図る	紙使用量の削減 (使用量=購入量として、2013年度を基準年とし、原単位比より削減する)	<input type="radio"/>

【自己評価の基準】 ○ … 計画通り実施できた。 × … 計画通り実施できなかった。

*1 原単位:電力や燃料、その他のそれぞれの使用量(購入量)を売上げと事務所・工場の延べ床面積を乗じた積で除した値です。

*2 総排出量:ISO14001認証サイトにおける事業活動で生じた廃棄物や有価物、並びにリユース物の合計値です。

汚染防止の取り組み

基本的な考え方 環境側面に適用される環境関連法規および当社が同意するその他の要求事項を遵守し、汚染の予防に努めます。また、自然災害などの緊急事態でも周辺の環境を汚染しないように努めています。

汚染防止の取り組み

三浦工機では汚染防止の取り組みとして、溶接時に発生するスラグ量を減少し、埋立ゴミを削減しています。ボイラの溶接部分にはソリッドワイヤーを使用しています。それにより、スラグ量の低減と除去作業時間が短縮されています。工具（エアチッパー）の稼働時間が短縮されたことでエアコンプレッサの電力使用量の低減、騒音発生量の低減・それに伴う人件等のコストの削減も継続しています。



①スラグ量の削減による埋立ゴミの削減

	埋立ゴミ(kg)/年	スラグ発生量の推移/月
変更前	25,000kg	約2,053kg/月
変更後	23,000kg	約1,889kg/月
削減効果		約8%削減

②作業時間・電力使用量の削減

スラグ除去作業の低減により、工具の電力使用量の削減のほか、騒音発生時間も短縮され、従業員の作業環境の改善を維持しています。

	作業時間	電力使用量
削減効果	178時間/年低減	192kWh/年削減

③ワイヤーのコスト削減

8台の溶接機器におけるワイヤーから算出し検証した結果、約821千円/年のコスト削減につながっています。

自然との共生

基本的な考え方 地球環境との調和を目指した環境活動として自然との共生に努めています。周辺地域の環境保全や、もっと広い視野で「従業員一人ひとりが身近に参加でき、その総和が環境負荷低減につながる活動」に取り組んでいます。

次世代への環境活動

毎年春に美しい花を咲かせる工場内のソメイヨシノ。この並木も老木となり樹齢のピークを迎えようとしています。次の世代に向けて「ジンダイアケボノ」という品種の桜を選び植樹を始めました。役目を終えた老木の根株除去を行い、土壤を活性化させ次へとつなぐ環境活動に取り組んでいます。新たな桜が開花し、その美しい花姿がすべての皆さまの癒しになるように取り組んでいます。



北条工場エリア食堂棟に植樹した「ジンダイアケボノ」

工場敷地内の伐採雑木の再利用

工場緑地管理の中、樹木の伐採剪定後に廃棄処分となる木材を、粉碎機によりチップ化し緑地内庭園部分に敷き詰めました。

この木材チップは土壤表面の乾燥を防ぎ、保湿を長く保つことができるため、長時間の防草効果にとても役立ちます。

木材チップは年数とともに堆肥化して土壤となり自然に還ります。廃木材のチップ化により、工場より排出される産廃物の削減にもつながっています。



伐採剪定枝のチップ化(三浦研修所中庭の様子)

省エネルギーの取り組み

基本的な考え方 限りあるエネルギーを、いかに無駄なく有効に利用していくかということについて、「ミウラグループの従業員一人ひとりが自ら考え、できることから行動する」を基本とし、より良い省エネ活動を展開しています。

三浦マニファクチャリング工場での空調機器の運転見直しによる省エネ

工場における省エネの取り組みとして、三浦マニファクチャリングでは、冷暖房の空調機器が不要である季節に運転されていないかを調査・測定し、適正な改善で省エネ化を実現しました。

- 【対象機器】
• 空調用冷温水循環ポンプ 2台
• クーリングタワー 2台
• クーリングタワー冷却水循環ポンプ 2台
• 冷凍機 2台

第一弾

蒸気送気システムで空調を自動運転していることで、冷暖房が不要である季節(4・10月)にも空調機器が運転状態になっていたため、現状調査を行い、改善を実施しました。

①空調停止による省エネ化の検証

	電力使用量kWh/日
2017年4月度	327
2018年4月度 空調運転停止	32
295kWh削減/日	※稼働20日

②省エネ効果(年間削減量)

	電力使用量kWh/年
2017年4・10月	17,991
2018年4・10月 空調運転停止	2,594
15,397kWh(85.6%)削減/年	電気料金338,734円削減/年

第二弾

電力量を削減できる方法として、空調機器を本稼働させない時期(5・6月)の稼働台数を2台から1台に変更することで、省エネ化を実現しました。

①冷凍機の台数変更による省エネ化の検証

	電力使用量kWh/日
2019年5月度	38
冷凍機2台	22
16kWh削減/日	※5日/週(月・火・木曜12h/日、水・金曜9h/日)

②省エネ効果(2カ月/年)

	電力使用量kWh/年
2019年5・6月度	16,416
冷凍機2台	9,504
6,912kWh(42.1%)削減/年	電気料金152,064円削減/年

※2カ月の稼働時間を432hとする。

省エネ効果

	電力使用量kWh/年	電気料金(円)
2018年度・2019年度合計	22,309kWh/年 削減	490,798円削減

省資源の取り組み

基本的な考え方

「混ぜればゴミ、分ければ資源」の考え方から、廃棄物を有効な資源と捉え、有効活用を図ること目的にしっかりと分別を行い、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を展開しています。

使用済み段ボール箱の有効利用

ミウラグループでは、以前は、使用済み段ボール箱はすべて折りたたみ、リサイクルを行っていました。現在は、部品入荷の際の段ボール箱開梱時に、汚れの有無、破損状況によって分別を行っています。リユース可能な物は、グループ内担当部門へ送付して、全国の拠点へのメンテナンスパーツ発送用としてリユースすることができ、段ボールリサイクル排出量を削減しています。
(2019年度リユース実績 20トン/年)



段ボールの回収・分別の様子

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方 ミウラグループは、持続的な企業価値向上の実現に向けて、ステークホルダーと良好な関係を築き、経営の透明性と効率性を追求する管理体制、自律的なCSR活動体制を整えることが重要と考えています。

現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要

● 取締役、取締役会、経営会議

2020年3月現在、取締役は12名（うち監査等委員4名）で構成され、取締役会は経営の意思決定を行うとともに、代表取締役および業務執行取締役の業務執行の適法性・妥当性について監督を行っています。経営会議は、取締役会で決定した基本方針に基づき業務執行に関する事項を協議・決定し、スピーディな業務執行に努めています。

● 指名委員会、報酬委員会

2018年から任意の指名委員会・報酬委員会を設置しています。両委員会は代表取締役3名で構成されており、独立社外取締役は含まれていませんが、決議された事項は独立社外取締役が過半数を占める監査等委員会で承認を得てから取締役会で審議するため、独立社外取締役の適切な関与・助言を得られる仕組みとなっています。

● 内部監査

内部監査室（スタッフ5名）は、子会社を含めた各部門の資産、会計、業務等の全般に関して経営方針、関係法令、社内規程等に準拠して適正に行われているか、定期的に内部監査を実施するとともに、必要に応じて改善・提言を行っています。

● 会計監査

ミウラは、会社法および金融商品取引法に基づく会計監査人に「有限責任監査法人トーマツ」を選任し、適正な会計監査を受けています。また、連結子会社で一部の海外現地法人では、ミウラ会計監査人以外の会計事務所の監査、レビューを受ける等で、実効性のある会計監査に努めています。

内部統制システム等に関する事項

● 内部統制システムに関する 基本的な考え方および整備状況

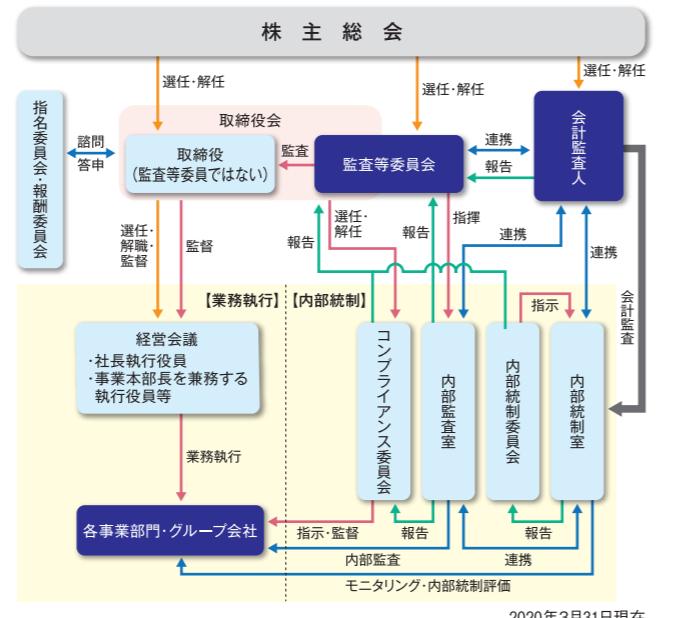
経営戦略や事業目的を組織として適正かつ効率的に達成するため、業務の効率化を高め、情報の信頼性を確保するとともに法令遵守の体制を構築していくことが内部統制システムの基本であると考えており、法令を遵守することはもちろん、企業倫理に照らして誠実かつ公正に業務を遂行することが重要であると認識しています。この方針に基づき、取締役および執行役員等で構成されるコンプライアンス委員会を設置し、「ミウラグループ企業行動規範」の周知徹底に努めています。

また、従業員に対して社内のほか社外弁護士を相談窓口とする内部通報制度を導入し、社内不祥事情報の早期収集を図っています。

● 監査等委員、監査等委員会

2020年3月現在、監査等委員会は監査等委員4名で構成され、うち3名が独立社外取締役です。監査等委員は、策定した監査方針等に基づき、取締役会や社内の重要な会議に出席するほか、本社、主要な事業所・子会社の調査等を実施し、代表取締役その他の業務執行者に対する監査・監督を行っています。また、会計監査人及び内部監査部門とは連携を密にして、効率的な監査を実施するよう努めています。特に内部監査部門である内部監査室は監査等委員会の下部組織となっており、より実効的な組織的監査を実施しています。

■コーポレート・ガバナンス体制図



● 反社会的勢力に向けた 基本的な考え方および整備状況

「ミウラグループ企業行動規範」のなかで、反社会的な活動を行う団体や勢力とは一切の関係を持たないことを明記しています。また、「反社会的勢力対応要領」を制定し、この要領に基づき、所轄の警察署や顧問弁護士の指導を仰ぎながら、企業として毅然とした態度で臨んでいます。「ミウラグループ企業行動規範」の詳細は本報告書の3~4ページに記載しています。

コンプライアンス、リスクマネジメント

基本的な考え方 コンプライアンスとリスクマネジメントはコーポレート・ガバナンスを支える基盤であり、切り離せない両輪であるという認識のもと、全従業員に「ミウラグループ企業行動規範」を浸透し、企業を取り巻くあらゆるリスクに対して公正で適正な対応を進めています。

コンプライアンス委員会の設置

ミウラグループのコンプライアンス体制の確立、維持、向上を目的としてコンプライアンス委員会を設置し、当グループ内各社の取締役会等に対し諮詢等を行っています。

情報の保護・情報セキュリティの取り組み

お客様から信頼される企業であり続けるために、お客様からお預かりした情報資産（個人情報や設備情報等）、ならびに保有する情報資産（営業上の秘密やノウハウ、インサイダー情報、技術情報等）は、あらゆる脅威から保護し、適正な管理・運用を確保することが求められます。ミウラグループでは、すべての役員と従業員が「情報管理規程」で定める情報セキュリティ対策を正しく理解し遵守し、日々の業務の中で情報資産の保護を最大限に配慮しながら企業活動を展開しています。

● セキュリティ対策の継続的な強化

「情報セキュリティ対策」として情報管理規程を定め、セキュリティ管理体制を明確にし、定期的な見直しと対策強化を継続的に行ってています。具体的には、専門機関によるホームページのセキュリティ診断などを行っています。

● 従業員教育を毎年実施

情報機器を取り扱う全従業員に対して継続的に情報セキュリティに関する教育・注意喚起を実施し、その重要性、情報の適切な取り扱いや管理について周知徹底を図っています。また、教育資料についても定期的に見直しを実施しています。

● 個人情報保護

お客様からの大切な個人情報に関しては、三浦工業のウェブサイトに記載した「プライバシーポリシー」のもと、取り扱いの規程を整備しています。また、保護状況については内部監査等による継続的な見直しを行っています。

安全保障輸出管理への取り組み

我が国をはじめとする主要国では、武器や軍事転用可能な貨物や技術が、国際社会の安全性を脅かすような国家やテロリスト集団など、懸念活動を行うおそれのある者に渡ることを防ぐため、国際的な枠組み（国際輸出管理レジーム）を作り、各国が協調して輸出等の管理を行っています。

ミウラグループは、この国際輸出管理レジームの国際合意はもとより所在国の輸出管理法令（我が国においては「外国為替及び外国貿易法」）を遵守することを基本方針として「グローバル安全保障輸出管理規程」を定め、国際的な平和および安全の維持の観点に立った適正な輸出管理に努めています。

知的財産の保護

第三者の知的財産権を尊重し、侵害しないように努めるとともに、自社の知的財産権の確保を積極的に行い、有効に活用する活動に取り組んでいます。

①知的財産権の尊重

第三者の知的財産権を侵害する事がないよう、先行技術等の調査を十分に行い、その結果を反映させた新技術・新製品の研究および開発を行っています。

②知的財産活動

研究・開発の初期段階から事業部門と知的財産室とが連携し、発明の抽出や特許等の権利化を戦略的に行い、技術の保護、および知的財産の強化を図っています。

③従業員教育

知的財産を尊重し、保護・活用する教育を、集合教育やe-ラーニング等により継続的に行っています。

事業継続計画（BCP^{*}）への対応

従来より「地震対策をはじめとする危機管理要領」、「海外緊急事態発生時対応要領」、「新型インフルエンザ対策要領」などを策定し、事業継続を脅かすさまざまなリスクへの対策を講じてきました。BCP基本方針に基づき、近年多発する豪雨被害などの対策も進めています。

関連する情報を、「お客様のお役に立つBCP」（20ページ）に掲載しています。

*BCP:Business Continuity Planning（事業継続計画）の略で、災害や事故など不測の事態を想定して、事業継続の視点から対応策をまとめた計画のことです。

緊急時の対応訓練

さまざまな災害が発生するなか、ミウラグループの防災力の向上を図るために、防災士の資格取得を奨励し、2020年3月現在で9名の従業員が取得しています。今後も従業員一人ひとりが基礎的な知識や技能を身に付けるため、定期的な教育訓練を実施していきます。



緊急時に備えて

お客様への責任と行動

基本的な考え方 我々は、「ミウラグループ企業行動規範」に則って行動し、お客様に役立つ技術を磨き、製品やサービスにおけるすべての「品質」を高め、信頼にお応えします。

品質マネジメント宣言の基本理念の実現に向けて

「わが社に対するお客様の信頼は、製品・サービスの品質の上に成り立っている。ここにお客様最優先・安全最優先を宣言し、全社員がテクノサービス力を高め、それぞれの部門でその役割を積極的に果たす。」を全うするための活動事例を報告します。

●品質向上会議

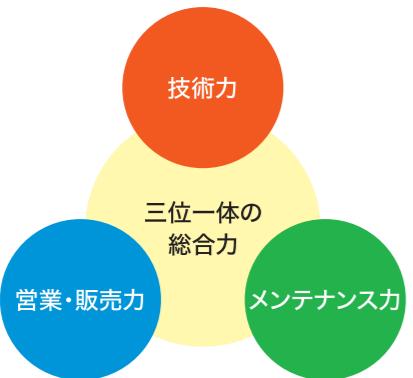
品質目標として「要求品質の100%保証」を掲げて活動しており、協力会社の方々と一緒に品質向上活動として、定期的な情報提供および意見交換の場を設けています。

活動事例では、不具合件数削減の効果が出ている協力会社での取り組みをビデオ撮影し、紹介するなどの手法を用いて、相互に理解を深めさらなる改善を目指しています。

品質向上活動は、管理にひと手間加えても、不具合の発生を抑え、無駄の削減が図れ、総合的にメリットとなります。日々の地道な活動を継続することの大切さを伝えることで、ものづくりは人づくりであることにつながっていくことも共有しています。

お客様の問題解決(三位一体の総合力)

ミウラグループは、技術・営業・メンテナンスの各部門が緊密に連携して一体的に動くワンストップサービスを何よりも大切にしています。この三位一体の連携でお客様に満足をお届けしています。



技術力

近年の食品工場における省エネニーズの高まり、冷却品質の向上要求を受け、多くのお客様にご愛顧いただいている真空冷却機^{※1}「CHシリーズ」をモデルチェンジしました。モデルチェンジの特徴としては、自社製水封式真空ポンプと蒸気エゼクタを組み合わせた最適設計で、独自の冷却システムをさらに進化させ、旧モデルと比較して、使用する水量を最大55%減、蒸気量を最大10%減と大幅に削減、また、従来の冷却槽内圧力制御による徐冷機能に加え、冷却槽内圧力と調理物冷却温度を組み合わせた独自の徐冷制御(AI制御)を新たに搭載し、従来機を上回る品質良い冷却を可能としました。



真空冷却機CH

営業・販売力

2020年3月、ミウラの運営する「高性能ボイラーの導入によるCO₂排出量削減事業」がJ-クレジット制度^{※2}に登録されました。これを受けミウラでは「ZMP契約 J-クレジット還元プラン」を開始しました。

企業投資において、ESGへの関心が急速に広がるなか、ミウラでは、ボイラをご使用されるお客様のCO₂削減の取り組みをより効率的に地球環境の保全活動につなげていただくため、J-クレジット制度の活用を提案しています。

●ZMP契約 J-クレジット還元プランの骨子

- 顧客のボイラ更新に伴うCO₂削減量をミウラが一括でとりまとめ
- 創出されたクレジットを電力会社などにまとめて販売
- クレジットの売却益に応じて、ボイラの保守費用(ZMP契約^{※3}料金)を軽減

●お客様のメリット

省エネデータをCO₂削減量に換算する計算や国の認定を受けてクレジット化する事務手続き、クレジットの売却先を探すといったことに手間をかけることなく環境活動に貢献いただけます。

メンテナンス力

クラウド環境を利用した“MEIS^{※4} CLOUD”(メイスクラウド)サービスはミウラ製品のエネルギー管理、運転状況管理を低価格でご提供しています。今後、ミウラ製品以外でもエネルギー管理ができる“MEIS CLOUD PLUS”(メイスクラウドプラス)のサービス開始を予定しています。さらなるエネルギーの最適利用に貢献します。

*1. 真空冷却機とは：冷却槽内の圧力を低下させることで、加熱された調理物から水分が蒸発する際に化熱を奪うことで、急速にムラなく調理物を冷却する装置です。急速に冷却することで、細菌が繁殖しやすい危険温度帯(約20°C~50°C)を短時間で通過できるため、菌の繁殖を抑制でき、より安全に「冷却」が行えます。

*2. J-クレジット制度 (<https://japancredit.go.jp/>) CO₂排出削減量を「クレジット」として国が認証する制度

*3. ZMP契約 ミウラ独自のボイラ保守契約制度

*4. MEIS:Miura Energy Information Service

お客様のお役に立つBCP

BCP基本方針

ミウラグループの事業継続計画(BCP)では、従業員とその家族の安全の確保などに関する「基本版」、製品の生産および供給の継続などに関する「生産対策班」での活動を前提に、災害発生時に必要となる情報の事前準備を基軸として、被災地には拠点対策本部のバックアップ、無被害の地域には通常業務継続のためのリスク低減および復旧支援の対応策を準備・実施する「メンテ営業活動継続支援班」による実働に取り組んでいます。

ミウラでは、大規模災害が発生した深刻な状況においても、取引先との関係を継続し、メンテナンス、営業活動を途絶えさせない“お客様目線”的BCP運用を目指しています。

●第2ZISオンラインセンター非常時対策

万が一、本社ZISオンラインセンターが被災し、機能を果たすことが難しくなった場合のバックアップとして、第2ZISオンラインセンターを栃木支店内に構えており、第2ZISオンラインセンター用の非常用発電機を2019年度に導入しました。非常時に第2ZISオンラインセンターおよびテレビ会議システムがバックアップされます。



非常用発電機

●BCPシステム同時災害対応

BCPシステム:2015年から運用している災害GIS(地理情報システム)を、2018年度に西日本豪雨災害、北海道地震と立て続けに発生した災害の教訓を受け、それまで1つの災害にしか管理できなかったBCPシステムを同時災害にも対応できるよう改善しました。その結果、2019年度に相次いで発生した佐賀県豪雨災害、台風19号災害にも混乱することなく対応できました。



地理情報システムの画面

●生産対策班BCP見直し

生産対策班では、コンサルティング会社指導のもと、BCP活動の見直しを実施しています。主な見直し内容として、

①事業継続計画(BCP)ToDoリストの時系列について、時期混同された内容から適正時期に合わせた記載への修正。

②各製造工程の手順書について、製造各社・代替性のある資源について具体的な手順書を作成し、各工程で漏れなく行動を起こせる内容に修正。

③生産対策班内に製造グループ会社も明記し、組織構成の明確化実施。

④緊急事態における生産計画の調整役割を明確化し、生産計画の混乱を最小限にとどめる。

以上4つの見直しを実施し、今後は年2回の演習を実施することでBCP活動の有効性確認、改善に対応します。

株主・投資家への責任と行動

基本的な考え方 企業価値の最大化を目指して効率性の高い経営に努めるとともに、株主や投資家の皆さまが必要とされる企業情報を適正かつ適時に開示し、対話を通じて経営の透明性を高め、開かれた企業を目指します。

ディスクロージャーポリシーと適正な情報開示

投資判断に影響を与える情報については、法令遵守のもと適正かつ公平な情報の開示を継続的に行ってています。また、ミウラをご理解いただきための情報についても、重要度や緊急性に応じて、ニュースリリースなどにより積極的かつ速やかに開示しています。

株主総会

第61回定時株主総会はショールーム棟「ミウラ愛サイト」内の会議室で開催しました。総会後には、ミウラグループの取り組みや海外展開等をより深くご理解いただけるよう、経営トップ自らIRセミナーに登壇しました。



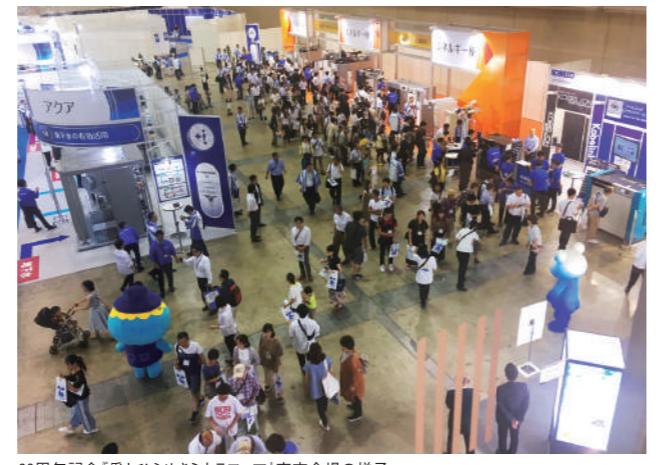
個人投資家向け説明会

個人投資家の皆さまとのダイレクトなコミュニケーションの機会として、野村証券株式会社様主催個人投資家向け会社説明会、さわかみ投信株式会社様主催運用報告会に参加しました。会場では、軟水と水道水を洗い比べる「手洗い体感」を実施し、ミウラの軟水のしっとり感をお試しいただきました。



機関投資家、アナリストへの見学・説明会

ミウラグループ設立60周年を記念した「愛とひらめきミウラフェア」東京会場では、機関投資家、アナリストを対象とした「見学ツアー」を開催しました。ミウラの歴史から世界へ展開するさまざまな製品やサービス、最新技術をご説明し、「ミウラのこれから」をご実感いただきました。



株主に対する利益還元

利益配分を重要な経営課題として認識し、経営基盤の強化を図りながら、連結配当性向30%を目指して、安定的な配当の継続を基本としています。株主の皆さまへの長期安定的な収益の確保と積極的な利益還元に努めて参ります。

株主優待では、魅力ある地元愛媛の県産品を優待品の1つとして、好評いただいています。



株主・投資家の皆さまへの情報発信

株主の皆さまへ業績報告、経営戦略、社内トピックス等を記載した「株主通信」を中間・本決算期に郵送しています。また、ミウラグループについてよりご理解を深めていただけるよう、ホームページを通じて情報発信しています。財務情報、非財務情報については必要に応じて英文版も掲載し、幅広くご理解いただける体制を整えています。

取引先への責任と行動

基本的な考え方 購買部門は企業の社会的責任を果たすために、取引先との相互理解・法令、社会規範遵守を積極的に推進しています。さらに取引先から供給された優れた資材をより良い製品づくりに活かし、お客様へ提供していきます。

調達の基本方針

オープン

日本国内だけでなく、広く海外の企業に対しても門戸を開き、優れた製品を有し、良好なサービスを得られる企業との取引を求めています。また常に新しい企業との購買取引を心掛けています。

公正

取引先の選定は、製品の品質・性能・価格・納期の確実性、アフターサービス体制、および経営状態などを総合的に判断し公正に選定します。

相互信頼

公正な取引を通じて、取引先の皆様との相互理解と信頼を深め、相互利益のために信頼関係を築き上げていくよう努めています。

法令の遵守

弊社との購買取引にあたって、弊社と取引先の皆様の双方が、国際社会の関連法規ならびにその精神を遵守すべきであると考えます。

社会への貢献

弊社と取引先の皆様が購買取引を通じて、ともに社会に貢献する良きパートナーとなるべきであると考えます。

「調達の基本方針」の詳細はウェブサイトでご覧いただけます。
<http://www.miuraz.co.jp/>

購買手続き

新規取引を希望の取引先に対しても、受け入れ態勢を整え、国内外や地域の差別なく公正に評価し選定を行います。

● 購買手続きの流れ



PC交流会(加工プロセス改善活動)

主要協力会社・設計・調達におけるPC交流会活動において、加工改善による加工時間の削減を電力消費量の削減に換算し、協力会社の部品製作におけるCO₂排出量の抑制に取り組んでおり、その成果を経営者に定期的に報告しています。



活動の様子



経営者会議の様子

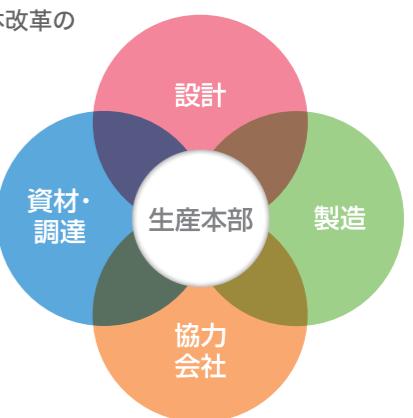
Web購買システム

業務効率化とペーパレス化を目的に開始したミウラWeb購買システム(電子データ交換による商取引)では、取引先とのより円滑な受発注が定着しています。また、新しく取引を開始させていただく場合も、相互にメリットを享受し、取引開始時点からの運用に協力をいただいている。注文伝票が郵送から電子データ交換に変更されることで、正確かつスピーディな発注情報の伝達と、データの有効活用も推進され、相互の働き方改革にも少なからず貢献できているのではないかと自負しています。今後は、さらなる進化を目指して継続的な改善を行います。

四位一体改革の推進

ミウラグループは世界連携で四位一体(設計・グループ製造会社・資材調達・協力会社)の生産改革を展開し、高品質・低コスト・短納期を実現する生産体制の構築に取り組んでいます。

● 四位一体改革の概念図



地域社会への責任と行動

基本的な考え方 ミウラグループでは芸術や文化・学校行事の支援、環境の保全・地域活動への協力、その他のボランティア活動などの分野において、地域との共存・共栄を図りながら、地域に役立つ社会貢献に取り組んでいます。

スポーツ

地域社会に役立つ社会貢献活動の一環として、本社を置く愛媛県に関わるプロスポーツや県内出身選手に対してスポンサー企業として協賛・応援をしています。



愛媛県松山市出身
女子プロゴルファー
河本 結 選手
「アクサレディスゴルフトーナメント in MIYAZAKI」の第7回大会(2019年3月開催)においてツアー初優勝。賞金ランギング6位。(2019年12月時点)

愛媛マラソン



「お接待所」を開設しランナーを応援(ドリンクや食べ物を配布)



ゴール地点ではランナーの疲れを癒す「足湯」コーナーでおもてなし

その他スポーツ関連の協賛

- **愛媛FC**
(日本プロサッカーリーグJリーグ所属)
- **愛媛オレンジバイキングス**
(男子プロバスケットボールリーグ B.LEAGUE所属)
- **今治オレンジブロッサム**
(日本実業団バスケットボール連盟)
- **愛媛マンダリンパイレーツ**
(プロ野球独立リーグ・四国アイランドリーグplus所属)
- **華谷 和生選手**
(女子プロテニスプレイヤー)
- **丹 萌乃選手**
(女子プロゴルファー)

文化・芸術

ミウラグループでは文化・芸術に関わる活動に積極的に協力をしています。愛媛県松山市の本社地区には「ミウラート・ヴィレッジ」があり、従業員や地域の方々にさまざまな美術品を鑑賞して楽しんでいただこうと創業者 故 三浦保の強い意志で建設されました。

2019年度はミウラグループ設立60周年ということで、入場無料の記念展を含む計8つの展覧会を開催。展覧会にあわせて作家によるギャラリートークも企画し、多くのお客様にご参加いただきました。また、2018年開催の「安倍安人展～改革する備前とその周辺」の図録「ABE ANJIN」が、第35回愛媛出版文化賞の奨励賞を受賞いたしました。今後も積極的に活動を行って参ります。



松本篤展ギャラリートークの様子

松山まつり



「ミウラグループ連」準優勝



第54回松山まつりに149名が参加

その他の文化・芸術活動関連の協賛

- **国立トレチャコフ美術館所蔵 ロマンティック・ロシア**
(愛媛県美術館)
- **千住博展**
(愛媛県美術館)
- **第1回愛媛国際映画祭**
(愛媛国際映画祭実行委員会)
- **「こころの劇場」愛媛県公演**
(劇団四季/一般財団法人舞台芸術センター)
- **坊ちゃん劇場第14作品 濱戸内行進曲**
(愛媛県東温市 坊ちゃん劇場)
- 他

教育

愛媛県松山市小中学校PTA連合会および松山市文化・スポーツ振興財団が主催する松山市内の小中学生を対象とした職業体験イベント「キッズジョブまつやま」に参加しています。ミウラグループの従業員がボランティアで参加し、実際に工具を使ってボイラに必要不可欠な水を送るための「配管組立」や、液体の性質を調べる「水分析」の作業を小中学生に体験してもらっています。ミウラ独自の「使う立場でのづくり」という製造業の仕事へ興味・関心をもっていただく良い機会となっています。



配管組立の様子



ボイラについて解説している様子

愛媛大学大学院農学研究科の寄附講座

1999年から愛媛大学に寄附講座を開設し、2002年には環境産業研究施設「三浦記念館」を寄贈しています。ここでは環境に関わる分析・対策技術の研究開発と教育を通して、地球環境の保全や循環型社会の構築、人財育成に貢献することを目指しています。

具体的には食品や水、土壤などに含まれるPCBや残留農薬等の化学物質の新たな分析技術、室内環境のモニタリング技術などの研究開発に産官学連携で取り組んでいます。



愛媛大学環境産業研究施設「三浦記念館」

キッザニア甲子園「ボイラ施設」でボイラエンジニアが体験できる!?

ミウラではららぼーと甲子園(兵庫県西宮市)内にある「キッザニア甲子園」に「ボイラ施設」パビリオンを出展しています。

こどもたちがボイラエンジニアとなり、キッザニアの街で使われているボイラの点検、確認、修理を行い、常に問題なくお客様へ熱源が届けられるようメンテナンス作業を行います。こどもたちはボイラのメンテナンスを通じて、キッザニアの街の暮らしを支える仕事の責任ややりがいを感じると同時に、部品を取り外し、再度組み立てることで、日頃目にすることが少ない機械のしくみを知り、ボイラについて理解を深めることができます。ミウラは、こどもたちにメンテナンス活動を通じてエネルギーの大切さや、社会に役立つことの大切さを知っていただきたいと考えています。

キッザニア甲子園に行った際にはぜひボイラ施設をご体験ください。

※ご来場には予約がおすすめです。詳細は、キッザニア甲子園オフィシャルサイトをご確認ください。



パビリオン内のユニホーム



メンテナンス作業をすることも



キッザニア甲子園

地域社会への責任と行動

ミウラアメリカ

地域支援と寄付活動

地元Polk Countyに対する地域貢献活動を行っています。地元の恵まれない人のために、サンクスギビング前には缶詰やインスタント食品等、日持ちのする食料を、またクリスマス前にはおもちゃ・衣類など、従業員が提供してくれたものを会社として寄付しています。2019年のサンクスギビングには総重量787ポンド(約357kg!)の食料が集まり、79家族に、またFood Bankに20家族分の食料を提供しました。クリスマスには合計300品のおもちゃ・衣類を地元Polk Countyに寄付しました。

その他、少年少女の募金活動のためにゴルフホールのスポンサーをしています。また保安当局とのコミュニティBBQ募金活動に参加し、麻薬犬・捜索犬および救助犬のK9タスクの資金集めを実施しています。郡のキャリアアカデミーの溶接プログラムともスポンサーシップを結んでおり、専用のトレーニングプログラムを共同で作成しています。この活動は地域コミュニティを支援するだけでなく、インターンシップの受け入れや後の雇用にもつながっています。



Food Bankで集めた食料

ミウラインドネシア

学生とともにGO GREEN活動

工場のあるカラワン県は、工業地域や住宅団地の建設に森林伐採が行されていました。その影響で最近は昔より乾季には水不足、雨季には洪水が発生しやすくなっています。若い世代への環境に対する教育の一環として、9月に、ミウラインドネシアは第1国立カラワン高等専門学校の学生たちとともに植樹をしました。また、同校の学生たちをミウラインドネシアでインターンシップとして迎え、実務経験の機会を提供しています。また、省エネの取り組みとして老朽化した外灯照明の更新は、LED化を進めています。



植樹の様子

学生のインターンシップの様子(工場での実務体験と事務処理)

ミウラメキシコ

COPARMEXに加盟

2020年1月より「COPARMEX」と呼ばれる経営者連合会に加盟する機会を得ました。COPARMEXはメキシコ国内14支部で構成され、約36,000社、国内総生産の30%を担う企業が加盟しています。

加盟のきっかけはメキシコの大手清涼飲料メーカーに納品されたミウラ製ボイラが省エネルギーと環境負荷低減に貢献しているとしてユーザーから加盟の推薦を得たことが機会となりました。この連合会には5のセクターに区分された17の委員会があり、その中でエネルギー委員会と環境委員会に所属することで、文字通り省エネルギーと環境負荷低減を促進するための活動を行っています。毎月の定例会では国連や政府機関の代表者と具体的な改善策について議論がされており、2020年の年間行事として省エネルギーを実現しているユーザーの見学会やセミナーを行うアイデアが盛り込まれようとしています。

これらの活動を通してメキシコ企業の省エネルギーと環境負荷低減をさらに加速させたいと考えています。



COPARMEXの環境委員会

ミウラ中国

環境美化活動への取り組み

ミウラ中国は、環境美化活動を毎年実施しています。2019年11月9日、中国の蘇州工場から12kmの場所にある「水八仙生態園」にて、園内のゴミ拾いをしました。この生態園には、マコモ、レンコン、ヒシ(忍者のマキビシの菱です)など、8種の水生植物があり、自然にあふれた住民の憩いの場所です。従業員とその家族136名が参加しました。子どもたちは大自然を享受しながら、拾ったゴミの量を競い合い、みんな笑顔にあふれました。子どもの時から環境を大事にする活動に関わることは良いことです。みんなの力をあわせて、青空と美しい生活を創造しましょう。



「水八仙生態園」の清掃活動に参加した従業員とその家族

従業員への責任と行動

基本的な考え方

ミウラグループは「働きがいのある、働きやすい職場づくり」をモットーに、従業員の人格・個性を尊重し、安全な職場環境と良質な労働条件を提供するとともに、人財の育成と活用を推進しています。

健康経営

従業員の心と体の健康保持・増進のために、三浦グループ健康保険組合との共同事業として「コラボヘルスプロジェクト」を取り組んでいます。毎年実施している「健康ウォークラリー」では、138チーム(521名)が参加し、117チーム(451名)が目標を達成しました。

2020年3月に、三浦工業が大規模法人部門、三浦アクアテックが中小規模法人部門で、健康経営優良法人2020に認定されました。今後も従業員の安全・健康を第一に健康経営に積極的に取り組みます。

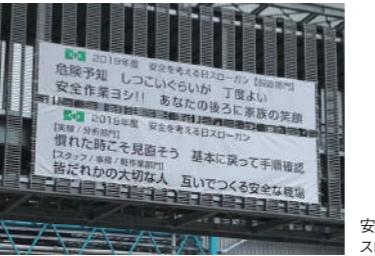


ワーク・ライフ・バランス

三浦工業では、労働時間の効率的な利用・生産性の向上および残業時間の削減を目的として、2018年度から、全正社員へコアタイムありのフレックスタイム制を一斉導入していましたが、2019年度より、より柔軟に、効率よく業務を行うことを期待してコアタイムを廃止いたしました。合わせて、働きやすい職場づくりを目指して、育児短時間勤務、看護休暇等の制度対象(子ども)を、これまでの小学3年生から小学6年生までと利用範囲を拡大しています。今後もさらなる環境整備を進めて参ります。

労働安全衛生

ミウラグループでは、事業活動のあらゆる面において安全・健康を第一と考え、さまざまな安全衛生活動に取り組んでいます。「安全を考える日」のスローガン掲示などで一人ひとりの安全意識を高めるとともに、他社との情報交換による安全衛生活動のレベルアップを図る活動を進めています。



安全を考える日
スローガン掲示

人財育成

ミウラグループの教育研修は、自ら考えてチャレンジできる従業員の育成をコンセプトに、従業員の業務やニーズに合った教育内容を検討し、個性を伸ばしていく教育体系づくりに取り組んでいます。たとえば、階層別や職種別、また他企業との交流やグローバル化に向けた研修など、年間400回を超える研修が開催され、延べ5,000名以上の従業員が参加しています。教育研修を通して従業員一人ひとりがさまざまな分野で個性を発揮できるようサポートしています。



新入社員研修の様子



野外研修の様子

業務改善活動

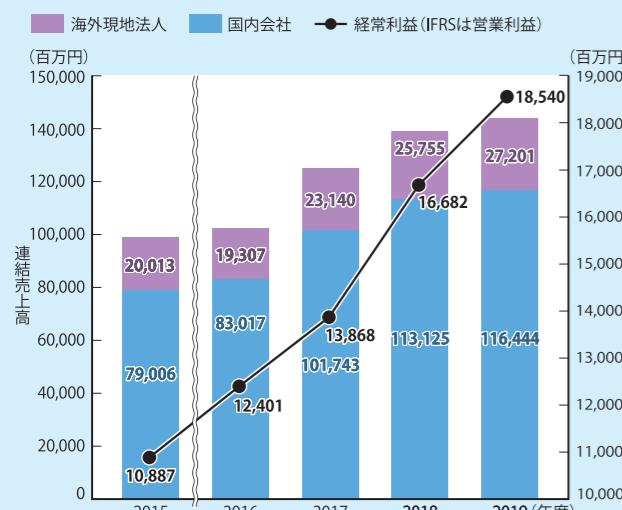
業務改善活動として、毎年「チーム・ミウラ活動」や小集団活動を行っています。「チーム・ミウラ活動」では、部門の垣根を越えて集まった有志10組ほどが、ミウラを大きく変える活動に取り組んでいます。また、自分だけでは実現が難しいアイデアは、直接関係部門の責任者に伝えることができる「わたしのリクエスト」ツールで自由闊達に意見が発信され、これまでにもさまざまなアイデアが実現されました。ミウラでは、チームとしても従業員一人ひとりとしてもさまざまな視点から改善活動に取り組んでいます。



チーム・ミウラ成果報告会の様子

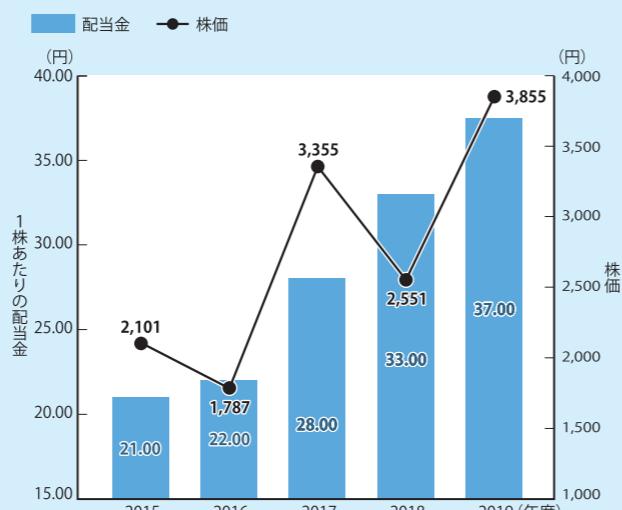
●財務指標

連結売上高、連結経常利益の推移



ミウラグループは、2017年度第1四半期連結会計期間より国際会計基準「IFRS」を導入しました。
ミウラグループは、2017年度第1四半期連結会計期間より国際会計基準「IFRS」を導入しました。
ミウラグループは、2017年度第1四半期連結会計期間より国際会計基準「IFRS」を導入しました。

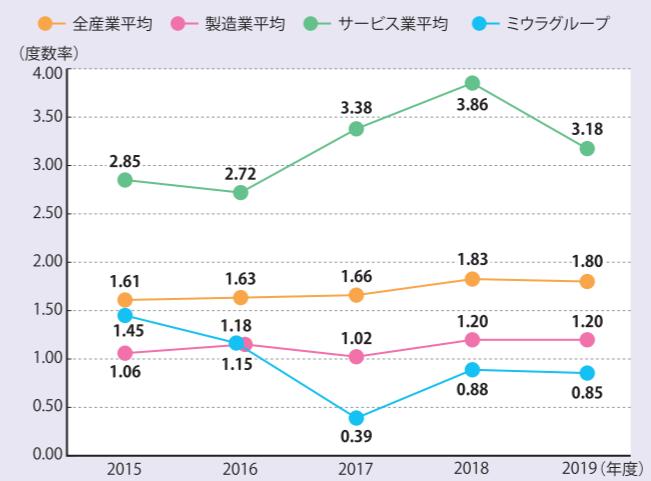
1株あたりの配当金と株価の推移



三浦工業は、2014年10月1日付けで普通株式1株につき3株の株式分割を行っています。
2011年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株あたり配当金」を算定しています。

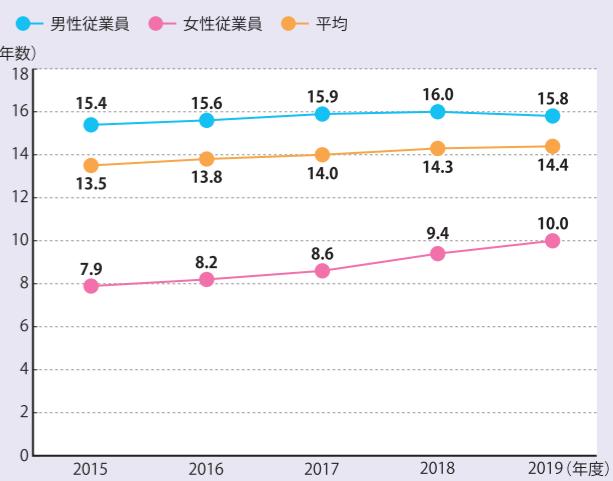
●従業員関連データ

休業災害度数率



※度数率: 100万労働時間あたりの休業(1日以上)災害件数
※全産業平均、製造業平均、サービス業平均データ出所:厚生労働省「労働災害動向調査」
※参考のため、機械修理業が該当する「サービス業(他に分類されないもの)」の度数率もグラフの中に取り込んでいます。

男女別従業員勤続年数の推移

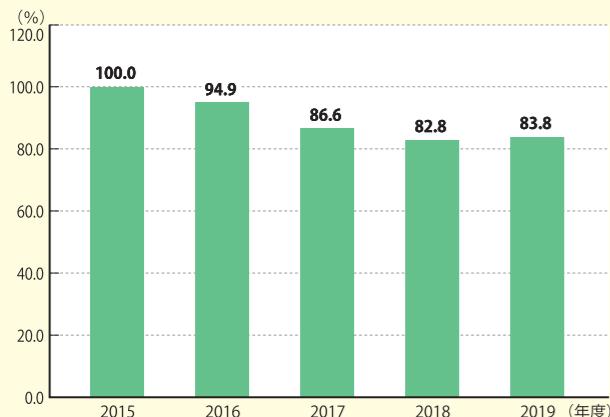


※データ基準:各年末時点
※データ範囲:三浦工業

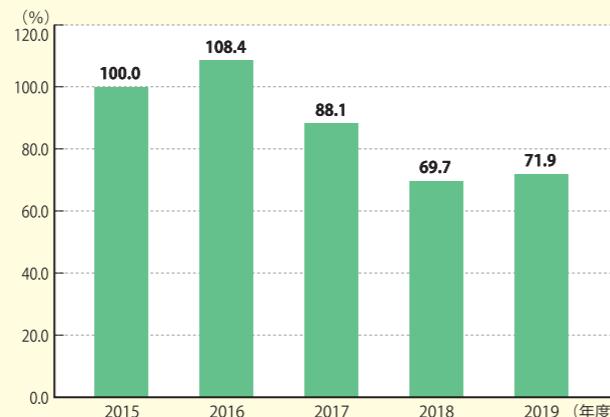
●総排出量の削減

2015年度を基準年として、集計範囲はISO14001認証サイト(本社地区および北条地区)としています。

総排出量の原単位比推移



リユース量の原単位比推移



OA紙購入量の原単位比推移



※総排出量:国内のISO14001認証サイトにおける事業活動で生じた廃棄物や有価物、並びにリユース物の合計値です。

※原単位:総排出量やリユース量、OA紙購入量を売上げと事務所・工場の延べ床面積を乗じた積で除した値で、2015年度の値を100%として比較しています。

水使用量(上水+井水)の原単位比推移



※総排出量:国内のISO14001認証サイトにおける事業活動で生じた廃棄物や有価物、並びにリユース物の合計値です。

※原単位:総排出量やリユース量、OA紙購入量を売上げと事務所・工場の延べ床面積を乗じた積で除した値で、2015年度の値を100%として比較しています。

●エネルギーの有効利用

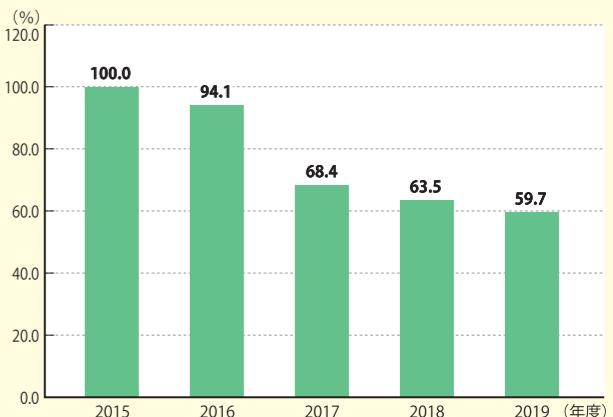
[国内] 2015年度を基準年として、集計範囲は省エネ法定期報告対象のミウラグループとしています。CO₂はその年度の「電気事業者別排出係数」を使用しています。

エネルギー使用量(原油換算)の原単位比推移



※原単位:エネルギー使用量やCO₂排出量を売上げと事務所・工場の延べ床面積を乗じた積で除した値で、2015年度の値を100%として比較しています。

CO₂排出量の原単位比推移



[海外] ミウラグループ海外法人のうちISO14001を認証取得企業の数値です。

エネルギー使用量(原油換算)の原単位比推移



※原単位:原油換算値(KL)で算出したエネルギー使用量を売り上げで除した値で、2016年の値を100%として比較しています。

※年度内の自社製品の蒸気ボイラにおける相当蒸発量の合計値

台湾三浦工業株式会社



※原単位:原油換算値(KL)で算出したエネルギー使用量を売り上げで除した値で、2016年の値を100%として比較しています。

※年度内の自社製品の蒸気ボイラにおける相当蒸発量の合計値

■第三者意見

ミウラグループのCSRの取り組みについて

(一財)CSOネットワーク代表理事
古谷 由紀子氏



消費生活アドバイザー、博士(総合政策)。
サステナビリティ消費者会議代表、CSRレビュー
フォーラム共同代表、ビジネスと人権NAP市民
社会プラットフォーム副代表幹事、日本経営倫理
学会理事、経営倫理実践研究センターフェロー、
消費者庁「消費者志向経営の推進に関する有識者
検討会」委員(2020年～)などを務める。

【主な論文・著書】

主な論文に「持続可能な消費」を進めるために
企業と社会フォーラム(2017年)、主な著書に「消
費者志向の経営戦略」芙蓉書房出版(2010年)、
「現代の消費者主権」(2017年)芙蓉書房出版。

ミウラグループは「熱・水・環境のベストパートナー」として、社会の変化を迅速にキャッチし、世界24の国や地域で着実にCSRへの取組みを進展させています。2019年は60周年を迎えたことから、今後100年企業に向けて、世界でのさらなる発展を期待して意見を述べたいと思います。

1. 製品・サービスで環境に大きく貢献されています

ボイラで培ってきた技術をもとに、高効率な省エネ、省水を実現する製品、資源の有効利用、製品のエネルギー管理によるメンテナンスサービスなどが、多くの企業の環境課題の解決に大きく貢献しています。省エネ大賞、全国発明表彰、日本機械学会賞、日本ガス協会技術大賞などさまざまな受賞がそれを示しています。

今後、このような多くの企業の環境課題への貢献について、ミウラグループのサプライチェーン上の環境課題の取り組みと併せて示すと、現在問題になっている環境課題について、ミウラグループの取り組みをトータルとして見せることができ、ステークホルダーからの評価も得やすいと思われます。

2. CSRマネジメントにもとづき、 CSRの取組みを次のステージへ

環境については環境マネジメントとして、方針、推進体制、中期計画によって着実に歩んでいます。そして、SDGsやその他の社会の変化の動きも迅速に捉え、社会の要請に応える意欲的な取り組みも行っています。しかし、持続可能な社会に関わる課題は刻々と変化し、人権・労働課題などの社会課題への要請は急速であり、企業のリスクも変化しています。働き方改革なども進められていますが、より本質的には、CSRの基本方針を定め、体制を整備するなど、ミウラグループのCSRを戦略的に進めていく段階にきているように思われます。

3. ステークホルダーとともに重要課題の特定へ

企業が取り組むCSRに関わる課題については、自社の技術や製品など強みを活かすことが重要であり、ミウラグループはまさにそれを十分活用されているように見受けられます。

しかし、一方で、企業には社会のステークホルダーから求められる課題を確認して、取り組む必要があります。そこでミウラグループのサプライチェーン全体を見渡して、さまざまなステークホルダーに影響を及ぼす人権・労働問題などの社会・環境課題を洗い出し、解決していくプロセスが必要になるのではないかでしょうか。特に、現在、世界を席捲している新型コロナウイルスの感染症の拡大はさまざまな人権・労働問題に影響を及ぼしていることから、影響を受けるステークホルダーあるいはそれに専門性を持つステークホルダーの声を聴きながら、社会・環境課題に向き合っていくことを期待します。

4. 「一人ひとりができることは何なのか、を問いかける」を強化へ

宮内大介社長のトップコミットメントにあるように、「一人ひとりができることは何なのか、を問いかける」取り組みは大変すばらしく、持続可能な社会の実現に重要な要素であるように思われます。このようなミウラグループの理念の体現として、移動式プラネタリウムや職業体験イベントなどは、非常に優れた消費者教育と言えるでしょう。今後、消費者・市民教育をグループが取り組むべき重要課題の一つとして力を入れていただくことを期待します。

5. 自律的に取り組む社員の育成に 持続可能性の視点を加味へ

ミウラグループは人財育成について、「自ら考えてチャレンジできる社員の育成」をコンセプトにしており、社員の自律性につながるものと評価できると思います。この教育研修にESD(持続可能な開発教育)の導入など持続可能性を加味すると、社員がCSRを担う強力な推進力となって、グループのCSRをさらに次のステージへと引き上げてくれることでしょう。

当意見は、「ミウラグループCSR報告書2020」の記載内容、ミウラグループのホームページ、さらに5月12日に実施したオンラインによるステークホルダーダイアログに基づいて執筆しています。

■第三者意見を受けて



環境トップマネジメント
上席執行役員

柳原伸章

古谷様には新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言を受けて、WEB会議という形でご参加いただきましたが、ミウラグループCSR報告書への貴重なご意見を頂戴し感謝申し上げます。

2019年5月1日に設立60周年を迎えたミウラグループは、弊社の製品やサービスをご活用いただくお客様、従業員(家族)、地域社会に対して企業理念「熱・水・環境の分野で環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献します」を念頭に“愛”と“ひらめき”で感謝をお伝えする1年となりました。なかでも6年振りに開催したプライベートフェアでは全国5会場で27,000名を超えるお客様にご来場いただきました。フェア会場では、弊社の柱であるメンテナンス事業に携わる従業員の働き方に大きく寄与するIoTを活用した最新技術の紹介や、次世代エネルギー水素社会実現に向けた取り組みなど紹介させていただきご好評をいただきました。

新たなCSR活動の取り組みとしては、プラネタリウムを活用した「ミウラ+Planetarium」と題したオリジナルコンテンツによる環境保全活動を行いました。全国で公募した小学校7カ所、プライベートフェア、東京・大阪での子ども向イベントで公開させていただきました。このコンテンツは、

我々の暮らしを豊かにする文明と、その一方で自然や多くの生き物が傷つき姿を消している現状を伝え、それを守るためにできることは何なのかを大人から子どもまで、自ら考える“きっかけ”となる内容になっております。今後も古谷様のご指摘にありました、消費者・市民教育を重要課題と考え積極的に取り組んで参ります。

また、CSRマネジメントの更なる整備や、ステークホルダーの皆さまから求められる課題(特に人権・労働課題などの社会課題)に対しましても、ミウラグループとしての方針やプロセスをお伝えできるように関連部署と協議して改善して参ります。

最後になりますが、本報告書をお手に取ってくださったすべてのステークホルダーの皆さんに感謝申し上げます。100年企業を目指すミウラグループの今後の取り組みをぜひご期待いただければと思います。



2019年7月7日に実施された従業員家族向けの+Planetariumお披露目試写会の様子

編集方針

本報告書はミウラグループのCSR(企業の社会的責任)を果たすための基本的な考え方や、取り組みに関する2019年度の実績と、今後の計画を報告するものです。CSR活動で特に重要と考えている環境、品質とCS(顧客満足度)、人財育成や社会貢献といったキーワードを中心に、各ステークホルダー(ミウラグループと関わるさまざまな利害関係者)からの関心が高いと思われることや、ミウラグループが特に注力していることを優先的に報告しています。

対象範囲

国内グループ会社および海外グループ会社については、一部含まれない会社もあります。但し、本文の記述のなかには一部過去と、直近の情報も含まれています。

ウェブサイトでの 情報開示

ミウラグループのCSR・環境情報は、ウェブサイトでもご覧いただけます。
<https://www.miuraz.co.jp/>

お問い合わせ先

三浦工業株式会社 ブランド企画室
[Tel] 089-979-7019 [E-mail] info_miuraz@miuraz.co.jp